

# 5年 研究経過報告（1・2学期）

H . 1 3 . 1 0 . 1 9

[ 学年研修目標 ]

自分との関わりの中から課題を見つけ追求していく子

[ 活動テーマ ]

**食** 自分を取りまく食について考えよう

## 1 . 具体的な活動内容

### 1 学期

#### 課題作り

- ・導入のガイダンスで、ウェビングを取り入れて、「自分を取りまく食」を自由にイメージしていく。「自分を取りまく食」をイメージできなかった子も、周りの子供たちの発言を参考にして、少しずつ自分のイメージを広げていこうとしていた。また、イメージ図を子供たちといっしょに作ることにより、教師がおよその方向性をつかむことができた。
- ・社会「わたしたちの生活と食料生産」家庭「わたしたちと食物」などの教科での学習を通して、子供たちは自分が追求したい課題を少しずつはっきりさせていった。そして、身近なことから多くの体験をしたり調べたりすることができる課題を作っていた。課題がなかなか見つけられない子には、導入で行ったウェビングイメージ図を参考にするように働きかけた。

#### 自力追求

- ・自己課題が決まったところで、個々に自己課題についてウェビングを行う。このときイメージを広げたり、自分のこだわりを大切にしたりすることと併せて、常に自分を意識していけるように、自分と課題との関わりについても考えていけるように声をかけた。
- ・次に、体験とコミュニケーションを大切にしながら追求していけるように、調べてみたいこと、やってみたいこと、行ってみたいところを個々にイメージし、ワークシートに書き込んだ。これらをもとに、活動の見通しを立てた。
- ・課題解決のための方法（図書室の本・市立図書館の本・電話・ファックス・インタビュー・インターネット）を検討し、どのような資料（メディア）を活用したらよいか個々に考え、資料収集を行っていった。そして、個々に自分が調べてたいことを解決していった。
- ・自力追求の過程を大切にしていくためのポートフォリオを取り入れた。具体的な方法として、総合のノートを各自が持ち、収集した資料、取り組んだことなどを記録していく。それにより「どんなことを」「どんな方法で調べて」「どんなことが分かった」のかをはっきりさせていきたいと考えた。

## 夏休み

- ・調べたことをもとに、夏休みならではの体験を行うよう声をかけた。1学期の終わりの教育相談で、保護者に個々の課題について説明し、資料収集や体験活動の協力をお願いした。しかし夏休みが終わってみると、体験や資料収集も十分でない子供が多かった。

## 2 学期

- ・調べたり体験したりしたことを、まとめていく。集めた資料をもとに、必要なことを整理して、自分が何を伝えたいのかを明確にして、相手によく分かるように表現するようにする。そのために、常に共通問題「自分をとりまく食を考えよう」と自己課題を意識させていく。実際に体験したことを写真で紹介したり、実演をしたりするなど、単なる調べ学習のまとめに終わらないように声をかけていく。

## 2 . 児童の表れ

### (活動例1) 課題「食品でできる食中毒予防」

- ・この課題にしたわけ「夏になると食中毒がさわがれるので、身近でできる予防法はないかと考えたから。」
- ・具体的な活動
  - ・食中毒菌について、本やインターネットで調べた。
  - ・家庭でできる食中毒予防について調べた。
  - ・夏休みは、家庭で実際に、調べたことを実行してみた。

### (活動例2) 課題「牛乳を使ってできる食品作り」

- ・この課題にしたわけ「牛乳製品を多く食べて、背が伸びたいから」
- ・具体的な活動
  - ・牛乳の栄養分を調べた。
  - ・プリン作り方を調べて、実際に作ってみた。
  - ・ヨーグルト、バター、チーズ、アイス作りの作り方を調べ、実際に作ってみた。

### 3 . 今後の課題や活動の見通し

- ・それぞれが調べたことをパビリオン形式で発表したり友達の発表を聞いたりする。
- ・友達の考えを互いに聞き合う活動を通して得た情報をもとに、「自分を取りまく食」について見つめ直し、新たに自分が調べたいことを見つけて、調べ学習を進めていく。
- ・今までの活動は、一人一人が様々な課題であるため、子供たちは体験を共有する事ができなかった。何か、学校で共通の体験ができないかと考え、九月にそばの種を植えることにした。そばは成長が速く、11月には収穫できる予定である。子供たちは、そばを植えると聞いて、そばがそのまま生えてくると考えた子供も多かった。そのため、そばの作り方を子供たちに実際に体験させるため、収穫したそばでそば打ちの体験を学年全体で行う予定である。